

受験勉強のやり方については、君たちは残念ながら素人です。無理無謀な計画を立てがちです。でもそれは仕方がないことです。立てた計画がうまく機能しないならすぐに修正する勇氣と機敏さを発揮しましょう。夏はチャンスです。一緒にがんばりましょう。

(柳 善一)

四〇日もある夏休み。この夏の時間をどのように使っていくのかで九月以降、差がでてきます。特に毎日続けることがやっても追いつけない絶対差となります。みんなに絶対差をつけられる夏にしよう

(小林 英一)

暑い夏休みが始まりました。夏期講習でどれだけ踏ん張れるかが、九月以降に大きく影響してしまいます。共に頑張りましょう!

(長坂 浩之)

みんなと同じことをやっただけでは差がつかない。一ヶ月以上あるこの夏休み期間に自分自身をどうとんと追い込んでみよう! 勝負の夏! この夏で他者を圧倒する力を身につけよう!

(村田 寛之)

夏休みに「遊びたい」という気持ちは誰でも同じです。だからこそ、「遊び」もするし、「勉強」もするし、これからの自分について【考える】夏にしてほしいです。受験生は夏が終わるころ、『今までの人生で一番勉強した。』と言える夏にして下さい。その一言が言えるって、結構、格好良いなあと心から思います。

(松尾 裕史)

何かをなそうと思えばそれを可能にする時間を持つて大事な夏休み。ひとつ目標をもって臨んでみないか?

(松永 弘文)

明日から本気出す!では己の限界もわかりません。秘められた潜在能力も引き出すことができません。限りある夏休みです。本気は今日から!!

(上野 真宏)

成績が伸びないことを嘆いてはいけません。他の人のせいにしてはいけません。自分が「伸びないこと」を毎日選択しているのだ。適切な方法で続けられれば、必ず結果は出る。時々ダメ。毎日毎日続けること。そうすることでのみ、きみは、新しい自分と出会う。

(小林 健輔)

一年で最も長い休みがやってくる。油断せず一日一日を大切に過ごしていきましょう。その積み重ねが、充実した夏休みを作ってくれる。

(由比 達也)

燃えろ! 夏!! 夏休みは成長のチャンス! 勉強に、部活に、趣味も全部、有意義に過ごしましょう。そしていろんなことに挑戦してみよう。

突き進め!みんな。

(森 清志)

受験は自分との戦いだ。自らの力を信じて、他人と比較することなく、志望校合格のために日々なすべきことをこなそう。そして、自らの弱さを自覚し、日々それに打ち勝とう。その毎日の戦いが結果につながる。

(大場 健司)

時間があると、あっといふ間に過ぎる。夏。これだけは! というものを心に一つ決めて過ごしましょう。

(五日市 浩)

この夏を通して一緒に成長しましょう。夏が終わった時に成長した自分に逢えるように。

(小池 寿幸)

夏休みは長いように思えるけど、過ごしてみると意外と短い。やるべき事、頑張りたい事、挑戦したい事、楽しみたい事をしっかり決めて一日一日を大事に過ごそう。

(本多 隆範)

「夏の夜はまだよひながら明けぬるを雲のいづこに月宿るらむ」夏は睡眠不足になりがちです。今日がんばっても、明日がんばれなくては、せっかくのがんばりが台無しです。体調管理も受験の一部ですよ!

(鮎澤 崇嗣)

来年の皆さんが第一志望の高校で充実した生活を送っているかは、今年の夏休みの時間の使い方次第です。気を引き締めて臨みましょう。

(岡本 武)

夏は受験生にとって最大のチャンスです。この時期を最大限有効に過ごし、ぜひ合格を勝ちとりましょう。

(高橋 力)

夏は来年もやってくる。しかし、今年の夏は来年はやってこない!

(瀬野 武士)

「できない」から「できた」にいくつ変えられるか。キミの成長物語ー共に熱いものにしていきましょう!

(樫村 公太)



受験生にとっては勝負の夏がやってきました。悔いの残らぬように過ごしましょう。努力はきつと成果となって表れます。

(村上 静馬)

今年も節電の夏です。キミたちの勉強エネルギーを蓄積して未来を明るく照らしましょう。

(関 憲吾)

いよいよ待ちに待った夏休み。自由な時間が増えて何でもできるような気がしませんか?でも意外と自由に使えない時間は、何をすべきか決めるのが難しいんです。計画的に充実した夏休みを一緒に送りましょう!

(高橋 麻衣子)

皆さん、待ちに待った夏休みです。ドラドラすこすともったいないですよ。一学期の学習の遅れは、夏期講習でしっかり取り戻し、残った時間は、思い切り、部活や趣味にぶつけてください。受験生は、苦しい時期ですが、一緒に頑張りましょう。

(阿部 浩明)

長い夏休み、うまく計画が立てられず、実際に行動できなかったらただけ充実したものにならないでしょう。失敗・後悔してしまわないよう、一緒に頑張ってみませんか。

(中村 瑤一郎)

中学生最後の夏休み、部活も勉強も悔いの残らないように完全燃焼しましょう。暑い、熱い夏休み、一緒に頑張って乗り越えましょう!

(大久保 宏美)

一生に一度の今年の夏、お互い悔いのないものにしよう。

(高野 陽介)

夏休みは学ぶことが多いはずですよ。とにかく「自分」と向き合ってください。一緒にがんばりましょう。

(浅岡 茜里)

みなさん、待ちに待った夏休みですよ!色々やりたいことがあると思いますが、勉強も忘れずに頑張りましょう。

(矢上 有一)

「夏を征する者は受験を征す!」言い古されたこの言葉の中に真実がある。英語ができない者は居ない。ただ覚えていない者が居るだけだ。足りない知識を埋めることに全力を尽くせ!夏が明けた時、君達が如何に成長しているかを大いに期待している。

(上 静恵)

ここで一句「夏休み 遊びもいが ほどほどに 自分のために 学習しよう」さあ、やるっちゃ。

(山崎 将之)

精神面でも学力面でも大きく成長する「夏」! 「夏」どのくらい真剣に勉強するかで「冬」の可否が決まってしまうと言っても過言ではないと思います。さて、君はどんな「夏」にしますか?

(新島 景子)

夏こそ成長のチャンスです。学校の授業が進まないからじっくり復習できる。ライバルが遊んでいる間に勉強すればその分差がつく。夏休みの甘い誘惑に打ち勝ち、キミの成長物語を始めよう!

(高寺 大介)

時間は戻りません。入試の日は必ずやってきます。この夏、受験に向かう戦闘態勢を整えましょう。そして、合否発表の日を楽しみにできるように自分を創ろう!

(木村 稔)

顧問の先生に言われた言葉

七月になり早いもので二〇一二年の半分が過ぎてしまいました。夏休みになると、部活動の大会・コンクールが始まりますね。目標はそれぞれ違うと思いますが、上を目指して努力している真つ最中ではないでしょうか？私は中学・高校と六年間運動部に所属していたのでこの時期になると自分が行っていた部活動のことを思い出します。

運動部に所属していたと書きましたが、中学生のときはバスケットボールを、高校生のときはハンドボールをやっていました。ほぼ毎日練習があり、部活動中心の生活を送っていたことを懐かしく思います。その六年間で二人の顧問の先生に出会いましたが、その二人から共通の言葉を言われました。



「練習の練習をするな！一つ一つ考えて集中して動け！」
 負けず嫌いではない私は、試合を意識せずにその時が過ぎればいいやあ……と思いつながら、ダラダラと練習をしていました。その都度、練習を止められ、喝を入れられていました。

何回も何回も繰り返し言われ、言われるたびにふてくされていきました。しかし、考えて練習したことで、個人的には練習試合や公式戦である程度成果を出すことができたと思っ

す。

部活動と勉強はとても似ているという話をよく聞きますが、最近改めて「部活動と勉強」について考えることが多くなりました。私は好きな部活動ばかりやって、嫌いな勉強との両立に失敗した中学・高校の生活を本当に残念だと思っ

ています。部活動が終わり、家で時間があいているときは、テレビを見ながら、メールをしながら宿題をするなど、「ながら勉強」をしてダラダラと過ごしていました。たくさんの無駄な時間を過ごしてしまったので、今はとても悔しく思っています。成績が上がらなかつたのも納得がいきますね。顧問の先生が何回も言ってく

ださった「練習の練習をするな！一つ一つ考えて集中して動け！」という言葉はその時も真剣に受け止めていれば、部活だけでなく勉強に



(浅岡)

駒走先生のこと (その2)

こまばしり

●駒走先生は、私の高校時代の恩師である。彼のおかげで英語を克服することができた。彼に

教わったのは「英文を読む」ことの定義と方法である。それを紹介しておきたい。

●そもそも文章を読むとは、その内容を理解することである。内容を理解することは、その文字を目で追うだけとか、その文字の音を確認するだけではない。「すももももももものうち」は有名な文だが、『すもも』も『もも』も『もものうち』と分けて初めて理解したことになる。勿論『すもも』『もも』『うち』の意味を知らないといけない。英文でも事情は同じである。単語の意味と、その意味の固まりが分かって初めて理解が可能となる。



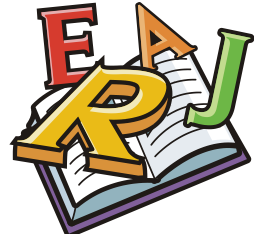
●さて、英文を読むことを定義することにしよう。まずは代表的な誤りから。①単語を目で追う。②単語を目で追いながら音声化する。③単語の意味をつないで訳をでっちあげる。①②③はかなりの生徒が自覚なしにやっていることである。そして、大半が永久にくり返す。そして、英文を読む

にはならない。では、英文を読むとはどういうことか。それは「意味の固まりを見つけて、構造を見抜き、直訳で日本語に置き換えること」である。ただし、意味の固まりを見つけて、構造を見抜いてから日本語に置き換えるのではなく、意味の固まりを見つけたら、直訳で日本語に置き換える(「一つ一つの単語を訳す」という作業が伴う)。

●よく、「英語は英語のまま受け取れ」とか「い

ちいち日本語に訳していたら終わらない」とかいう意見を述べる人がいる。また、「日本語は使っていくうちに自然に身についた。英語も同じだ。」という意見も多い。しかし、日本にいる学習者が、英語を身につけるには、日本語を媒介にせざるを得ない。大学受験でいえば、偏差値80ぐらいのレベルになってから英語を英語のまま受け取れるように自然に変わっていく。勿論、ベストは英語圏で生活することである。

●大学に入ったとき、同じ学科の中に英検一級が何人かいたが、みんなそこへたどり着く道は同じだった。まず大学受験用の単語・熟語・文法・英文でそれぞれ一冊、日本語を媒介にして何十回とくり返し、すみずみまで理解暗記していた。(その上で、ラジオ英会話上級を死ぬほど聞いて、全スキットを暗記)。



●みんな読めるようになる。教科書を見ただけで訳せるようになる。そのためには、構文のテキストを使って「意味の固まりを見つけて、構造を見抜き、直訳で日本語に置き換える」練習をするのだ。

(小林(健))

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。